

外科学（第二）

研究可能テーマ

研究可能テーマ	研究指導者	受け入れ可能院生数
<p>(1)外科的内分泌疾患における患者アウトカム立脚型臨床研究 *</p> <p>患者のアウトカムを検証する臨床研究が重要であることは論を俟たない。甲状腺、副甲状腺、副腎、乳腺など外科的内分泌疾患の臨床において未解決の課題を明らかにし、その解決を図って外科医療の進歩に貢献する</p>	岡本教授	3
<p>(2)乳癌患者における血中循環癌幹細胞（CTC）に関する研究 *</p> <p>CTCについては、これまで転移性乳癌患者における予後因子としての意義や早期治療効果の予測因子としての有用性が報告され注目されている。研究では、CTCを測定し臨床病理学的諸因子と対比して検討するほか、CTC自体のHER2やホルモン感受性を検出し治療効果の予測や治療効果判定への応用の可能性について検討する。</p>	神尾准教授	1
<p>(3)乳癌患者における薬物代謝マーカー及び癌関連遺伝子の解析 *</p> <p>薬物代謝酵素やトランスポーター遺伝子多型により薬効や重篤副作用が予測できることが近年明らかになってきた。本研究では、当院の乳癌患者を対象にマイクロアレイを用いた薬物代謝酵素やトランスポーター遺伝子多型を網羅的に解析すると共に、乳癌組織の癌遺伝子・癌抑制遺伝子解析を同時に実施する。生殖細胞系列遺伝子多型および乳癌細胞における体細胞変異を包括的に解析することで、乳癌に対する個別化医療の推進に役立つ真のゲノムバイオマーカーを同定することを目的として研究を行う。</p>	神尾准教授	1
<p>(4)小児腹腔鏡手術時における気腹の生体への影響に関する検討 *</p> <p>近年、成人領域同様、小児外科領域においても腹腔鏡手術の導入がすすみ、今後益々発展することが考えられるが、その際、最も問題となるのは安全性である。これまでに、気腹が脳室-腹腔シャントに及ぼす影響の実験的・臨床的検討を行ってきたが、小児では成人に比し小児特有の様々な病態があり各病態下での安全性に対する検討が必要である。特に重症心身障害児に対する腹腔鏡手術時の様々な影響を中心に検討する。</p>	世川准教授	1
<p>(9)副甲状腺癌の発生機序の解明</p> <p>希少疾患である副甲状腺癌は転移再発すると難治である。著明な高カルシウム血症を呈することから、外科治療が一定の役割を果たすが根治性には限界がある。副甲状腺癌発生のメカニズムを解明し、難治症例の治療戦略に結び付ける。</p>	堀内講師	1
<p>(10)乳癌患者のQOL評価に関する研究</p> <p>乳癌患者が直面する、診断から初期治療、再発治療、緩和医療といった、さまざまな治療（介入）において“QOL”をアウトカムとして解明したい疑問点(リサーチクエスション)を設定する。研究手法として量的研究法を用い、QOLを測定し分析する。</p>	坂本准講師	1
<p>(11)甲状腺濾胞性腫瘍の診断のための新規バイオマーカーの探索</p> <p>甲状腺濾胞性腫瘍の診断の決め手は被膜および脈管浸潤の有無である。この点に関しては術前の判断は困難なことが多いため、手術適応の判断が難しい。人体組織材料および甲状腺癌細胞株を用いて腫瘍細胞の浸潤能を示す新規バイオマーカーの探索を行い、濾胞性腫瘍の診断能の向上を目指す。</p>	岡本教授 尾身助教	1

\*：医師免許取得者 対象